

経 済 民 生 常 任 委 員 会 記 録

令和4年 11月4日(金)午後1時 19分～午後2時 14分(9階 908会議室)

○出席委員（8名）

委員 長	阿部 亨
副委員 長	小熊 省三
委 員	沢井 和宏
委 員	丹治 誠
委 員	尾形 武
委 員	粕谷 悦功
委 員	半沢 正典
委 員	渡辺 敏彦

○欠席委員(なし)

○市長等部局出席者(なし)

○議 題

「郊外型大型商業施設開業に伴う本市への影響と対策に関する調査」

- (1) 行政視察の意見開陳について
- (2) 今後の調査の進め方について

午後1時19分 開 議

(阿部 亨委員長) ただいまから経済民生常任委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付のとおりです。

郊外型大型商業施設開業に伴う本市への影響と対策に関する調査についてを議題といたします。

初めに、行政視察の意見開陳についてを議題といたします。

先週の25日から27日までの3日間、商店街活性化等の事例を聴取するために、愛知県豊田市、愛知県豊橋市、埼玉県羽生市の視察を行いました。本日は視察した自治体ごとに意見開陳を行いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(阿部 亨委員長) それでは、そのように進めたいと思います。

まず初めに、愛知県豊田市の視察に関する意見開陳を行います。ご意見のある方はお述べください。

(尾形 武委員) 豊田市につきましては、近くにイオンモールがあるということで、なかなか影響は当初は感じられたのだが、落ち着けばその影響はあるということはあるのですけれども、いろんな

時代の流れとともに各商店街のシャッター通りがあって、いろんな商工業活性化のための補助事業やら、あとはクラウドファンディングということで寄附を募っているような事業をやるような事業などを行っていたということは言われました。こういった支援、補助金、対策などを通じて、豊田は世界のトヨタということで人口も密集していますし、いろんな意味で事業のやり方次第では成功する方もおられますし、そういった意味では大体その個人個人の民間の企業努力によってはやっていけるような状況もあるのかなということが見れました。それにつきましても、やはり商店さんの個々の努力といえますか、そういったものに対して行政がいかに補助とか支援する施策が必要になってくるのかなということで、福島市も将来あのような状況にはなるのかなと思っております。

以上です。

(粕谷悦功委員) 豊田、豊橋市に共通している内容は、中心市街地で、百貨店と言われる、こういうものが全て撤退しているというのが一つ大きな特徴ではないかなというふうに思いました。その中で、豊田市であれば個店、商業の活性化に向けたそういう計画、プランをつくって、個店ですね、個人の店、こういうものを何とか頑張って事業を進めていけるように種々の取組をしているという、そういう状況を感じました。

それと、クラウドファンディングに対しての補助金ですか、こういうものも新たなデジタル化社会に向けた、そういう取組なんかも進めておったなというふうに感じました。

それと、大型店が出店したからといって、町なかが大変な状況になるのだと、だからどうだという、そういう思いはあまり持っていない。福島市は伊達にできただけでもびりびりしているのですが、豊田市でも同じ市の中に出たりしているということからかどうかわかりませんが、大型店が出店したからといってあまり危機感を抱かずに、中心市街地を含めた町なかの商店街の活性化、こういうものをしっかり取り組んでいくという、そういう考え方が豊田市には見られたというふうに思いました。

豊田市は、商工業界、工業のほうが強くて、商業のほうはあまりいろいろ意見を強く述べたりするということできていないのが現状だというようなことを聞きました。工業依存型の市であるから、だからといって商工業の皆さんをしっかりと行政は支えて、そしてまちの活性化や地域の人が商店街に足しげく通うというような、そういうことに取り組んでいるというふうに感じました。

(沢井和宏委員) 特に豊田市でまず感じたのは、地域が広いなというのをすごく感じました。イメージとして、豊田市というと工業のまち、車のまちというイメージだったのですが、大部分が山間地域で、その中ですごく新しいものにチャレンジすることに支援するという、そういう傾向が強いのかなという感じがしました。特に、先ほどもあったように、個店の支援というので新しいものにチャレンジしていくことに前向きに応援していくということがすばらしいのかな。地域が広いということで、山間地貢献事業支援という、それについても補助金を出して、そういう事業にも積極的に手を出してくださいよ、今までの事業にとらわれることなく、新しい事業展開に対しての支援がなされているよ

うな感じがしました。

以上です。

(半沢正典委員) 豊田市につきましては、もう既にお話しいただいたとおりです。活性化プランの概要を説明した上で、5つの具体的な補助事業についてチラシに基づいてご説明いただいて、大体本市のやっているものとそんなに変わらないかなと。ただ、豊田市、今沢井委員おっしゃったように非常に市の面積が広く、その中で中山間地が非常に占めているということで、山村地域貢献事業というような新たな事業展開によって地域の生活を商業の面から支えるような補助メニューがあったというのが印象に残ります。ただ、概要版にあるように、豊田市の商業購買行動の現状を見ると、まだまだ高齢化率も高くないですし、家計所得においては400万円を超えているということで、3大都市圏がもともと高いのに、その中でもまた非常に高い家計所得、要するに豊かだということで、当然のことながら貨幣の流通が多くて、商業関係も大変ながらもしっかりとお金は回っているなど。そのために、窮した、商業の火が消えそうだから、支援するというよりは、何かしなければいけないから、この辺ちょっと押さえておこうみたいな感じで、市全体の豊かさが工業だけではなくて商業にも及んでいるので、商業の衰退というような近々の課題にはあまり直面していないような印象はありました。その中の事業展開ということで、コロナとかそういうのを現在やっているというようなイメージです。

大型店については、今言ったように今のままで十分、今でも大型店がいろいろ一定いる中でもちゃんとやっていけるし、空き店舗のほうも質問しましたら、あるけれども、駐車場にしてしっかりと利益稼いでいるよというようなことで、大型店の進出により商業者の生活が脅かされていると、大きな影響を受けているというような印象はありませんでした。

以上です。

(渡辺敏彦委員) 皆様方がおっしゃったとおりであります。豊田では我々なじめないのは、豊橋でもあったのだけれども、クラウドファンディング利用のいろんな事業があるのだなと思いました。

あと、町なかになりますと当然駐車場が欲しいのですが、それについても福島は、買物の金額によって1時間とか2時間なのだけれども、あそこは3時間で大分長いな、これから私どものほうも中心市街地等々考えていきますと、もっと長い時間駐車場を使えたほうがいろんな意味でいいのかなと思いましたので、駐車場の利活用というか、そういったものについても考えていかななくてはならないなというふうに思います。

あと、ちょこっと話に出たのですが、買物代行なんていう話があったのだけれども、新しい事業で、買物代行をする仕事をする方が出てきたとかという話があったのね。これからはやはり高齢者等々、あるいは足がない方々とか、そういった方については、新たな仕事としてそういったものがあれば、逆に郊外にいろいろ店舗ができて対応し切れるのかななんていう思いもしたのです。あとは皆さんがおっしゃるとおり、量販店でできても、意識を持って頑張っていただければ何とか継続できる部門もあるのかなというふうに感じました。

以上です。

(**小熊省三委員**) 豊田市について言えば、皆さんからも話が出ていましたけれども、15キロ圏内に15ぐらいだったかな、大型店舗が、ショッピングモールがあるということで、福島は伊達にできたというそういう点では環境は違うなと思いました。やっぱりそういう中で中心市街地の活性化の歩みということでまちづくりの協議会をやっているというところが一つ参考になったかな。それが全部使えるとは思いませんけれども、参考になりました。

あとは、事業の展開、サポート、補助だとか、それからほかの委員もおっしゃっていましたが、いわゆる山間地だとか商店街からえらく遠いというところに対しての農村地域の支援事業というか、住民が買物に、難民と言うとちょっと表現が悪いのですが、そこに対する手だてだとかしているというところが印象として残りました。

以上です。

(**阿部 亨委員長**) 様々皆様のほうから意見開陳ということで出ましたが、ほぼほぼ皆様から出たとおりだと思いますが、補助事業等々に関してはいろいろあると、本市に関しても様々やってはいるというふうに私も思います。その中で先ほど来出ています山村地域貢献事業応援補助金ということで、買物代行サービスとか宅配サービス、その辺、移動販売などもこれは対象になるということで、これはちょっと今まで私も見たことなかった、本市としても参考にすべき部分があるのかなというふうには思いました。

あと、中心市街地の活性化、これはイオンモールというか、大型施設の開業等々も関係なく、どこの地域においてもこれは今大分問題になっているということで、その取組ということでは、商工会議所ですか、先ほど来出ていました商工団体、こちらが工業のほうやはり強いということで、商工会議所の役員等も工業関係の方が多という話だったのです。そのような形ではあるが、商業のほうの様々な事業を一緒にはやっているよということで、自動車産業がやはり軸になっているという部分はどうしてもあるとは思いました。市民の方の所得とか、先ほども出ましたが、豊かさという点ではやはりあるのかなという部分で、買物などは十分すみ分けといいますか、地元の商店街、またそういうモールとかに行くなどというのははっきりしている。あと、コンビニなども、ドラッグストアとか、ミニスーパーですか、その辺は重視されていると。コンビニも出ているということで、その辺も十分注視してやってはいるということではございました。

また、商工団体に関しては様々連携をしていくということは、なかなかそれもできていないという話だったと思います。マンパワー不足などもあるのですが、商工団体との連携はなかなかうまくいっていないのかなというふうに感じます。それは、本市においても協議会等々のお話などありますが、実際にはまだそれは進んでいないということで、同じような状況ではあるのかなというふうには感じました。

全体としては、やっている補助事業等々は十分本市においてもやっているというふうには感じまし

たし、その中で先ほどもお話ししました山村地域貢献事業応援補助金などは大変参考になる部分。ただ、地域性といいますか、地域の豊かさという部分ではちょっと本市とは別といいますか、そういう部分はあるのかなという感じはしましたので、その辺は考慮して様々支援事業等々はやっていくという形がいいのかなというふうには思いました。以上でございます。

では次に、豊橋市のほうに関して意見開陳をしていきたいと思えます。

同じように尾形委員からお願いします。

(尾形 武委員) 豊橋市におきましても豊田市と似ているような共通な課題、どこの都市でも同じなのですけども、商店街の方々は高齢者、それに伴って後継者の不足、そしてシャッターが目につくというような状況はどこの都市でも同じなのかなと思いました。今買物のスタイルも若い人たちはどうしても大型ショッピングモールに引っ張られて、市内で買物するよりもそっちに行くとか、あとはインターネットなどで買うという時代になりまして、なかなか商工会の経営も将来やはり厳しいものがこれからあるのかなと。いろんな助成事業がありますので、若手起業家がいかに頑張るそのまを活性化するかというのが一番大事になってくるのかなと感じたところであります。いろんな各種補助事業などをやっているということで、人口の密集地帯だから、いろんなビジネスチャンスはあると思うのですけれども、やはり個人経営者のアイデアといいますか、そういったものがこれからは問われてくるのかなという気がしてまいりました。

以上です。

(粕谷悦功委員) 豊橋市は、商店街の個店の皆さんのアンケートを実施したという、いわゆる課題を知るためのアンケートを実施したという特徴がありましたね。そして、そのアンケートで課題となった内容、特に人材育成かな、この内容については行政として人材育成のプランを準備して取り組んでいるという、そういうことを非常に強く感じました。

それと、まちの中は比較的やはり豊橋市は活気があったように私は思いました。郊外に大型店があるのですけれども、そういう中でも町なかは結構にぎわいがあったのではないかなというふうに思いました。

それと、ここもやっぱり自分のエリアの中に、豊橋市の中にイオンが、福島でいえば福島イオンみたいなものなのだろうけれども、そういうイオンがあるということですけども、あまりそのことで中心の個店、商業の皆さんが、厳しい状況にはなっているのでしょうかけれども、そんなに大きいモールができてから、大変だという、そんなイメージはありませんでした。

それと、ここも結構いろんな補助金をつくっていますね。チャレンジ応援補助金、市内電車おかりキップサービス事業とか、いろんな補助金を活用して商店街の活性化を図るという、そういう取組をしているというのを強く感じました。

以上です。

(沢井和宏委員) 私もまず豊橋市の商店街の中に任意組織として発展会というのが結構こんなにつ

ばいあるのだ、だからもともとはそれぞれの地区で結構活性化して商業に取り組んできたのではないかなという、そういう感じがしました。それで、アンケートを取ってみると、やはり先ほど言われたように後継者不足というのが一番大きな数字になっている。だから、もともとそういう素地が結構あった地域なのかななんて思いました。それで、先ほど言われたように人材育成に力を入れて、いろんな講座を設けて、とにかく人をつくらなくてはならないということで力を入れているのだな、そこはすごく参考になるのではないかななんて思いました。

以上です。

(半沢正典委員) もう既にいろいろ意見出ていますとおりです。アンケートの実施結果に基づいて商業の振興策の施策、そして先ほど粕谷委員がおっしゃったように、特に人材育成には様々なプログラムをつくって、広く人材育成に努めているなというのが非常に印象的です。

その中で、我々の所管事務調査の目的であります大型店に対する商店街の対応についてなのですが、アンケートの結果のとおり、直面している課題としては、豊川辺りに今度新しくできる、隣接するのですか、豊川市にできるというお話、そしてまたもう既に浜松の大型店とか名古屋のほうに買物は流れているという現状の中からも、大型店の客流出に対する不安はそれほど高くないと、行政に対してもあまり声が寄せられていないというふうな話を聞きました。やはり先ほどの豊田とも似ていると思うのですが、豊橋のほうはどっちかという新幹線の駅もあり、交通の要衝ということもあって、市内のにぎわいは非常に豊田以上にぎわいがあったというふうなイメージあります。その中で、商業施設も苦戦をしながら、商売に窮するような状況までは陥っていないのだろうなというふうな想定ができて、我々のような切迫したような状況にはなっていないと。よって、施策のほうも先ほど言ったような人材育成とか、ちょっとした商業の活性化に資する施策の展開で十分足りているので、ちょっと福島市とは問題のレベルが違うのかなというふうな印象を抱きました。

以上です。

(渡辺敏彦委員) 皆様方がおっしゃったとおりであります。特に先ほど言いましたように、やっぱり郊外にできますと町なか为空く、駐車場どうするのだという話で駐車場を確認しました。3,500台分ぐらいは市内で稼働できるということでもありますから、それを上手に使っていけばいいのかな。例えば人材育成の話がありましたが、いくらかけているのだと聞いたら、3,300万円もかけて、集まる人がうんと少なく、200万円ぐらいしか受講料をもらっていないのだという話なのだよ。商工会議所でも別なことやっているというのだよね。この辺と一緒にやったらと、講習料がもったいないなど、人材育成に対する意欲は感じるのだけれども、その辺のやり口、やり方をもうちょっと上手にするともうちょっと効果が上がるのかなというふうには思いました。あと、今半沢委員が言ったとおり、福島とはちょっと違うのかなというふうな思いはありますが、気になったところはその辺です。

以上。

(小熊省三委員) 私のほうから、今、中小企業の人材育成事業制度についての話が出ました。確かに

商工会のとどこが違うのですかと、すみ分けはどうしていますかという話があって、当局が言うには管理だとか人事とか、そういう中身が中心のメニューになっているので、働く人という表現は悪いかもしれないけれども、役立つ技術のを中心メニューを組んでいるというところを見ると、なるほどというところと、すみ分けはしているのかなというところが思ったことがあります。

それから、もう一つは事業展開、新ビジネスチャレンジ応援補助金というのがあって、事業展開に対しての補助だとか、オンラインでもそれに対しても補助を出すというところで、クラウドファンディングもありましたけれども、それは豊田のときに言ったので、そこら辺で豊橋市のところではちょっと違うところがあるのだなと思っていました。

それから、もう一つ、話題の後半のところに出てきましたけれども、後継者不足に対して事業者後継ということで、事業者後継のプラットフォームをつくりながらマッチングさせていくというようなことも国の事業を利用しながらやっているというところで、なかなかそこら辺も魅力的だなと、魅力的と言うとおかしいですけども、地域の商店街を廃業させない、商店街をつくっていくという意味では参考になるのかなと思いました。

以上です。

(阿部 亨委員長) ありがとうございます。皆様からほぼほぼ意見が出たという形ではありますが、アンケート調査を行って、現況なりを商店街等に聞くということで、それに伴って進めていくということに関しては、そういうことをやっているなというのを、やっぱり人材育成ですか、これに関してここはある程度やっているのかなと。先ほど出ました若者の就業支援、就職支援、また先ほどのマッチングですか、あとは様々な後継者不足対策も含めた人材育成ということで取組、ただお金はかけているのですが、ある事業とかに結構偏った形、ドローン養成とか、そういう部分は人気があるなんていうことですが、あんまり人気がない講座もあると。しかし、事業費としても3,300万円取っているの、大分お金をかけてはやっていると思いました。そういう部分は事業継承、後継者不足対策も含めて取り組むべき部分ではあるのかなと思いました。先ほど来出ていますイオンモール豊川開業に伴う影響は特にないというようなお話をされていて、地域性というものも十分感じました。以上です。

では、最後に羽生市。

では、また尾形委員からお願いします。

(尾形 武委員) 羽生市は、最後にイオンモールをぐるっと外周して見てきましたが、本当に大型店だなというふうな実感として見る事ができた。そんな中で、羽生市内の中はやはり収入が減少したというのがアンケート調査でも6割に上ったり、いろんな意味で消費動向が変わってきたということがかいま見られました。一番羽生市が創業支援ということで新しい事業化、そして女性起業家などの創業支援に相当力を入れて、若者を定住促進したり、あと市民の方がボランティアで町なかを再生したりというような取組が行われていて、クラウドファンディングなどを有効に利用しながら、何とかまちを活性化しようという心意気は伝わってきました。いずれにしましても、大型店の立地市とい

う点においては、イオンモールの出店は市全体を通して見れば利益があるということで、よかったというようなアンケートもありますが、それに携わらない周りの方々の創意工夫、そして年間1,000万人もの消費者が来るということで、その消費者の方をいかに羽生市に、いろんな意味で観光とか商業とか、いろんなアイデアを店の中にいかに取り込んでいくかと、利用させるかというのが大きな課題なのかなと感じました。

以上です。

(粕谷悦功委員) 羽生は、同じ市の中にできているから、何とも言えないのだけれども、イオンが進出して利便性が非常にアップしたと言っているのだね。買物が便利になったと言っているのだね。だから、消費者からするとそういう便利な商店、モールなんかができる就非常によいという、そういう結果が出ているというふうに思いました。行政メリットまであるようなことを言っていたから、広報活動とか、投票もできるのをつくっているのだとか言っていました。研修会をやるのも、研修会の場所はただでできるのだとか、そういうことをされると困るのだけれども、本当は。伊達市でそういうようにされたのでは、ただでやれるなんていったら、みんなそっちに行くのではないかというふうに思いましたけれども。

それと、羽生市は町なかのシャッターが、あのおときだけ商店街が休みでシャッターが下りていたのかどうか分からないけれども、えらくシャッター通りになっているなというふうに思いました。そのために行政が、図書室みたいなのをつくったりしているけれども、ちょっとこの町なかの商店街は非常に苦労している状況が見えました。イオンが出たからかどうか、自分のエリアの中に出ただけけれども、そういうことが影響しているのかどうか分かりませんが、そういうふうに感じました。行政はそういうことでやっぱり何とか町なかのシャッター街を解消するためにいろんなことを3つ、4つ取り組んでいて、そのモデルとして我々は見せてもらいましたがけれども、図書館みたいなのがあったけれども、行政としては取組を精いっぱいしているという、そういうふうな印象を持ちました。

以上です。

(沢井和宏委員) 1つは、イオンモールの中で近隣の市町村のPRをイオンモールがある程度主体的にいろいろ展示したり何かして、そういうのをやってくれているところを、それを福島でも積極的にイオンモールのほうに働きかけて、そういうところからそこに集まる人々を何とか福島のほうにも目を向けていただくという、それはできるのではないかななんて思っております。今は大型店はそうしていかないと地元との共存が難しいという部分もあるので、そこら辺をアピールしていくべきかななんて思っています。一方、やはりシャッター街が多かったのですけれども、小さな集まりをいっぱいつくって、とにかく活性化しようという試みが、図書館にも表れているような感じがするのですけれども、やはり自分たち、もともと地元に住んでいる人たちが自分の地元に着目をして、地元を愛して、そこから何かを変えていこうという、そういう気概をつくっていつているのではないかななんて思っています。そんな中で実行委員会をつくって、住民を巻き込んで動きをつくり始めている。

ただ、5万人ぐらいの小さい市なので、なかなかそこは順調にはっていないということなのですが、ただお話の中で須賀川市を参考にして取り組みましたという話があって、我々同じ福島県にいて、須賀川市がどんなことをやっているのかもちょっと参考にしなくてはならないのかなんていう感じもしました。

以上です。

(半沢正典委員) 羽生市については、後ほど渡辺委員からも出ると思うのですが、まさしく伊達市がこんな感じになるのかなど。要するにほとんどマイナス面はありませんでしたよと。雇用は増えるし、税収も増えるし、人の住みよいランキングも上がるしということで、商店街の売上げがちょっと下がったというのが6割ぐらいあるというようなデータは示されましたが、かといって自分の生活のレベルが下がったかという、ちょっとそこまでは聞けなかったのですけれども、そうではなかったのかなど。もともと衣料とか衣類関係で発達したというところがあって、そういう商店が、粕谷委員おっしゃったように、随分シャッターを閉めてはいたのですけれども、まち全体のにぎやかさについて言えば、全体としてはプラスに転じているでしょうと。羽生市に関わらずだと思うのですが、埼玉県って結構各市が非常に多くて、県が伴走型でいろいろやってくれているなど。施策の展開を市町村の地域性なんかを生かしながら、伴走型の支援がうまくやっているなどというような気がしています。羽生市ですから、近くに佐野のアウトレットモールもあるし、いろいろショッピングセンター、市内にもイオンモールに行く途中にショッピングモールとかショッピングタウンというのですか、大きなのがありましたし、そういうところで市民は利便性を感じているし、他市からの買物で来ている人がいて、あとは埼玉県と道路の拡幅の話も出ていたみたいですし。そういう形で立地している市として、先ほど言った行政も含めて、イオンモールをうまく活用しているという印象を抱きましたので、今回の所管事務調査のテーマに当てはめれば、それをうまく、さっき沢井委員が言ったように、行政とうまくやるような形の方向性を探っていく上では参考になったというところであります。

以上です。

(渡辺敏彦委員) 先ほど来話がありましたように、住みよいまちランキングが非常に大きく上に上がってきた、これができるのも悪いことではないのかなという思いはしました。ただ、中心市街地どうなるのだろうなという話になるのだけれども、ここも本当に中心市街地は厳しい状況なのですが、その中でMD Libraryとかかといって、まちのえきというイメージなのかな、そこにいろいろ若い方々が集まって、ボランティアでまちおこしをするような機運になってきたというのは、そういった意味では銭金面というよりも、意識としては今までと違ってきたのかなという思いはあります。基本的に店って何であるかといったら住民のためにあるものだし、利便性がよければそっちに消費者は行くものね。やっぱり町なかをどうこうするには利便性とか、さっき言ったように駐車場とか、足の問題とかきっちりやっていかなくては駄目だと思うのです。あとは住民の意識、地域の店を残していこうという意識、それがまさにこのMD Library的な感覚なのかなという思いがしました。

あともう一つ、俗にコバンザメ商法という言葉がありますが、近くの公園で売り物をやったらいっぱい人が集まったと。だから、そういったことも考えながらまち全体の元気をそのかわいで発揮できるのかな、そんな思いをしました。伊達市にできるから、福島市でそういった状況になるか分からないけれども、そのようなところでした。

以上。

(小熊省三委員) 私の印象としては、皆さんも言ったのですけれども、個店のところで、例えば藍染めのところで、創業するなら羽生みたいな感じでお店を出したりだとか、ラーメン屋さんだとか、そういう個人の商店のところで魅力を出してまちを支えていくみたいな。そこは大型商店が来ながらも、そこをどうしていくかというところは結構見ている参考になったと思いました。MD Libraryの話もありましたけれども、そういうところが私の印象に残ったという感じです。

(阿部 亨委員長) ありがとうございます。まさに大型商業施設が立地する自治体ということで、いろいろ皆さんのほうからお話をいただきましたが、そもそもがそんなに大きいまちでもなく、商店街等々はもちろんあったでしょうけれども、私はシャッター街というのが大分進んでいるというか、休みではない、まさに閉まっているのだなという状況が分かりました。イオンモールが進出することによって、それに乗っかっていきますよという部分、あとやはりまちのえき等々もありますが、もとのまち自体を盛り上げていこうという意識の醸成ですか、そういう部分に関してはこのMD Library、ボランティアで運営されているなどということも伺いまして、そういう意識はやっぱりあるのかなというふうには思いました。ただ、本当にイオンモールを、参考人招致のときもお話を伺ったのですが、利用してくださいよと言っていましたけれども、まさにそれに乗っかっていこうという部分はあるのかなと。羽生としては本当にウエルカムといいますか、イオンが来たことによってどんどんまち自体も発展していきますよ、それに乗っかっていろいろやっていきますよという部分は、うまくそれも広報とか施設を使わせてもらうとか、そういう部分ではうまい具合には今のところはいっているのかなとは思いますが、もちろん買物とかそういう部分でも非常に便利だということで、いいほうには行っているのだと思いますけれども、これはまさに立地の自治体ということでありまして、私たちは隣の自治体であるということで、その影響というのは本当にあると思うのですけれども、そこをいかに何かやっていこうかなという部分では、やはり広報とかですか、その辺は十分考えられるのですが、何かもうちょっと一緒にやっていく部分というのは取り組んでいくことがあるのかな、考えていかなくはならないのかなというふうには十分感じたところでした。以上でございます。

何か皆さんでありますか。言い残したこととかございますか。

(粕谷悦功委員) 思ったのだけれども、日常の買物は町なかでという、そういうふうにしたのだよな。だから、やっぱり日常の買物を町なかで買えるような、そういう商店街になっていかないと、町なかは駄目なのではないかと思うのだよな。残っているのは、まんじゅう屋とかパン屋とか。イオンモールにはどこかのまんじゅうとかパンは売っているのだろうけれども、まんじゅうはそれぞれに製

造する人の腕によって味が違うから、だから地域でもまんじゅう屋とかは残っているのだ、結構どこでも。松川だってそうでしょう、まんじゅう屋が残っていて。あとパン屋なのだね。パン屋も大体いっぱいあるのだ、ああいうモールなんかが出来たって。だから、モールにはない、そういうすみ分けをしっかりとしたまちをつくと、それはやっぱり日常の買物は町なかでということになるのだと思うのだけれども、どういうふうにするかだよ。だって、魚なんかどこで買ったって一緒でしょう。魚屋で、生きいいか生き悪いか分からないけれども、魚の味は変わらない。白菜だってどこで買ったって一緒でしょう。八百屋で買ったって、スーパーで買ったって。そういうのだから、八百屋は潰れていくわ、魚屋潰れるわ。そういうのは何かやっぱり考えていかないと町なかも駄目なのではないかなと思ったね。

(尾形 武委員) 羽生市のキンカ堂という中堅のスーパーが店を閉じたということで、やはりイオンモールのスーパーに人が流れていってしまうのだなど。高齢化社会になって、買物をする方が高齢者となって、イオンモールに果たしていつまで行けるのかなという気はしますけれども、そういった意味では高齢者向けの店が今後伸びる可能性はあるのかななんて思うのですけれども。

(阿部 亨委員長) では、ご意見をいただきました。ありがとうございます。

本日いただいた意見については、正副委員長手元で内容を整理させていただき、調査のまとめの際にお示しをさせていただきたいと思えます。

行政視察に関する意見開陳は以上といたします。

では次に、今後の調査の進め方についてを議題といたします。

スケジュール案をご覧ください。次回から委員長報告のまとめに入ってまいります。まず、12月の下旬に調査を振り返り、提言項目等について協議をいただきたいと思いますと考えております。その後、素案の協議を行い、2月下旬には各会派で委員長報告をご確認いただき、3月定例会議で委員長報告を行いたいと考えております。そのように進めさせていただいてよろしいでしょうか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(阿部 亨委員長) それでは、そのように進めさせていただきます。

以上で経済民生常任委員会を終了いたします。

午後2時14分 散 会

経済民生常任委員長 阿部 亨